様式4

学校番号 93

令和　6　年度　学校評価書【学校運営協議会用】（　実施段階　）

福岡県立　筑　豊　高等学校

スクール・ミッション （本校の存在意義や社会的役割 目指すべき学校像）	「予測困難な時代をたくましく生き抜く産業人材を育成する学校」 地域の産学官連携による実践的教育活動を通して、社会人基礎力を身に付け、卒業後に即戦力として地域社会へ貢献できる商業と家庭分野の専門家を育成します。 （1）あきらめず最後までやり通す、学ぶ意欲の高い人材（知） （2）礼儀を重んじ、相手を思いやる豊かな心をもった人材（徳） （3）困難なことにも忍耐強く挑戦する体力と、くじけない心をもった人材（体） （4）地域社会を支え、地域社会に貢献できる人材（地域創生）	
スクール・ポリシー （三つの方針）	グラデュエーション・ポリシー （育成を目指す資質・能力に 関する方針）	・起業家教育の視点に立ち「マネジメント」「クリエイティブ」「ホスピタリティ」の領域に必要となる資質・能力を育成し、地域や社会で必要とされる人材の育成 ・就職後は即戦力、即社会人として活躍できる人材の育成 ・進学後は専門的な学びを更に深め、自らの進路選択の幅を拡大できる人材の育成
	カリキュラム・ポリシー （教育課程の編成及び実施に 関する方針）	・起業家による講義や実習等、3年計画による体験的活動【起業家育成プログラム】 ・地元商店街や提携店舗での販売活動、商業施設でのファッションショー等、地域産業界と連携した実践的活動 ・直方市との協働による子育てサロンの開設等、地域行政と連携した社会的活動 ・幼小高大連携での保育実習や被服実習等、異校種間と連携した体験的活動 ・社会人招聘事業を活用した体験的活動
	アドミッション・ポリシー （入学者の受け入れに 関する方針）	・責任感をもった正直な生徒（誠実） ・人の気持ちを理解し、自他を大切にする生徒（親愛） ・何事にも挑戦しようとする意思と創造性をもった生徒（創造）

学校運営計画（4月）

学校運営方針			評価（総合）
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標	
本校は創立116年目を迎える筑豊地区唯一の専門高校である。「実学」重視の学習により、社会人基礎力を身に付け、卒業後に即戦力として地域社会へ貢献できる（地域創生）人財となるべく教育活動を推進している。 しかし、毎年定員割れが続く中にも、令和6年度入試において商業に関する学科の出願者数は定員120名に対して59名と過半数を割る衝撃的な数となった。他地区において商業に関する学科を設置する学校でここまでの定員割れをする学校はなく、筑豊地区における商業教育へのニーズについて分析すべき必要性を強く感じる。 いかに本校の特色や魅力を「選ばれる県立高校」として発信し、積み上げていくのか、学校再編等も話題になる中、生き残りをかけて取り組んでいくことは、本校を選んで入学してきた生徒が卒業する時に「筑豊高校に来てよかった」と笑顔と涙で卒業していく姿、そして、全員第一希望進路の実現を全職員のミッションとして、学校満足度の高い教育活動を粛々と展開していく他ないと考える。 10年後、20年後も「筑豊高校ここにあり」と地域社会から必要とされ、信頼される学校であるためにも全職員で力を合わせ、本年度の「学校経営方針」の具現化と本校の更なる魅力化、特色化を推進していく。	1. 安心・安全な学校づくり「危機管理体制の構築」	・集会やホームルーム及び研修等を通じて、登下校、出退勤時や教育活動全般におけるリスクをマネジメントできる生徒と職員の危機管理体制を構築する。職員においては特に人権感覚の涵養、働き方改革の推進、及び不祥事防止の啓発を促す研修体制を充実させる。また、教育活動全般を通して、生徒相互の理解と尊重を促し、生徒一人ひとりが安心・安全で居場所のある学校を作るため、多様性を認め合い、自他の人権を守ろうとする実践力・人権感覚を育成する。そして特別な支援を要する生徒や不登校等の生徒への手厚い指導をSC・SSWと連携し、誰一人取り残さない個別最適な生徒指導を推進することによって、転退学のない信頼される学校づくりに努める。	A
	2. ワークライフバランスのとれた働き方の実現「職員の健康＆風通しのよい職場」	・教職員一人ひとりが生徒と向き合える時間を確保し、やりがいと充実感をもって教育活動に取り組めるよう、行事や業務の精選、業務量の平準化、外部専門家の活用、組織での対応等を推進し、週休日には心と身体を休める時間を確保する。また、管理職や各部課長のリーダーシップのもと、「チーム筑豊」として風通しのよい職場環境づくりに努める。	
	3. やりがいのある学年経営、クラス経営の確立「組織としてのリスペクトある支援体	学年主任のリーダーシップのもと、担任・副担任がやりがいをもってクラス経営に臨むことができる組織的な支援体制を確立させる。協力し合う教員の姿と、その取組が生徒の成長、育成にリンクしていく協働的な教育活動を展開していく。「生徒の笑顔は学校の宝、学校の宝は生徒の笑顔」を大切にできる愛ある教育を施す教師集団を目指す。	
	4. 基礎学力の定着「主体的に学ぶ意欲の育成を目指した観点別評価の有効活用」	・観点別評価を有効に活用し、生徒の学びに向かう主体性を育成するとともに低学力、及び特別な支援を要する生徒の進路保障につなげる。主体性を基軸として基礎的・基本的な学力の定着を図り、ICTの活用や習熟度、TT、AL型授業などを手段とした授業改善に取り組む。また、教科内連携による指導法の共有や専門研修及び公開授業等を活用した教職員のスキルアップを図り、個別最適な学びと協働的な学びを推進する。	
	5. 鍛えて、ほめて、生徒の可能性を伸ばす教育活動の実践「筑豊プライドの醸成」	・各科の特色ある取組や学校行事、生徒会活動、部活動及びボランティア活動等を通して、自己有用感や自尊感情、コミュニケーション能力及びチャレンジ精神を育成し、鍛えてほめることにより生じる自己肯定感や達成感を味わせ、筑豊高校生としての帰属意識を涵養する。	
	6. キャリア教育、職業教育の充実「オープンキャンパスやインターンシップへの積極	・自己の進路を切り拓くキャリア教育と職業教育を充実させ、成年年齢引き下げの自覚のもと社会生活に主体的に参加する態度と能力を育成するとともに、第1希望進路の実現を目指す。また、3年間の計画的、継続的なキャリア教育と職業教育を展開し、オープンキャンパスやインターンシップ及び応募前職場見学等に積極的に参加する生徒を育成する。	
	7. 実践的、体験的な教育活動の推進「地域貢献活動への積極的参加」	・コミュニティ・スクール導入校として、専門教育や産業教育を活用した「実学の筑豊」をアピールすべく地域創生をテーマに、本校の専門性を活かした地域社会への貢献活動を行い、地域に密着した学校づくりを行う。地域連携についてはできる事とできない事を精選し、職員のワークライフバランスの取れた働き方とリンクできるように留意する。	
	8. 積極的な情報発信「広報活動の充実」	・募集定員の確保を目標として、1年間を通して計画的、合理的な中学校訪問やオープンスクールを実施する。また、学校ホームページやSNSを活用した広報活動を充実させ、専門高校としての魅力や特色を様々な場面で発信していく。	

自己評価								学校運営協議会評価	
評価項目	具体的目標	具体的方策	生徒、保護者対象のアンケート（外部アンケート等）の結果等	評価（3月）			結果の考察と次年度の課題	項目ごとの評価	学校運営協議会からの意見
基礎学力の充実と部内運営上の連携強化	基礎学力の定着及び主体的に学ぶ意欲の育成に向けた観点別評価の研究	各学期の成績を統計的に分析し、次年度の評価について研究する。	年間指導計画、評価シートについて、100%の実施率であった。成績評価の説明についても同様であった。	B	A	B	年間指導計画、評価シートの作成については、次年度も引き続き行っていき、その内容等の改善を図りながら、指導と評価の一体化を更に図っていく必要がある。	B	現在のところ申し出ている生徒はいないということではあるが、今般の社会情勢を踏まえると、遠隔授業については今後の重要性が増すと考えられる。
		各教科に各科目の年間指導計画とともに学期毎の評価シートを提出してもらう。		A					
		全学年、全科目において授業担当者から成績評価について授業で説明を行う。		A					
	統合型校務支援システムの活用と欠席数、遅刻数、転退学数の抑制	担任による出欠入力と教科担任による欠課の入力の徹底化を図る。	1、2、3年生の出席率は97.3%であった。HR後の白板ボードへの記入、確認も日々適切に行われていた。	B	B		次年度に向けて遅刻者数を更に減らしていく。校務支援システムへの入力については、全ての教員がその日のうちに済ましていく必要がある。		
		校務支援システムに入力された出欠と欠課の結果を活用し、欠席・遅刻、欠課時数の情報の共有化を図る。		A					
		欠席、遅刻、欠課について、各学年や関係部署と連携して指導を行う。		B					
効果的なICT活用の推進	教員のICT活用能力の向上	授業や業務に役立てるため、GoogleClassroomの活用を推進する。	「教員のICT活用指導力等の実態」調査は、まだ県教委より連絡がないため実施していない。	A	A	A	・Classroomは各種アンケートや授業等で積極的に活用されており、次年度も推奨していく。	A	ICT機器の活用は少しずつ推進されている。今後も進めていってほしい。
		ICT活用研修を企画・実施する。		A					
		相互授業訪問週間を実施し、授業におけるICT活用事例を共有する。		B					
	生徒がICTを最大限に活用できる環境整備	Chromebookを毎日使用する機会を設け、機材不良の早期発見につなげる。	タブレットの活用では全教科・科目において、全生徒が有効に活用できている。	A	A		・大きなトラブルもなく活用することができた。次年度も機材不良の早期発見に努めていく。 ・時代のニーズに対応した研修を企画・実施する。		
		機材の操作方法やトラブルに関する相談窓口を案内する。		A					
		学校行事や部活動等でのICT活用事例を情報提供する。		B					
広報活動「入りたい学校」	体験入学等で本校を訪問する中学生・保護者300人以上	戦略的な中学校訪問を行い（年4回程度）情報を発信する	体験入学参加者数のべ319名で達成アンケート結果筑豊高校で学びたい気持ちになった生徒97．5%	B	A	B	体験入学の参加者数は319名と近年では最高数となった。近隣私学が同日開始であったが、中学校訪問等での声掛けが結果につながった。個別の体験入学から受検意思を示す生徒も多かった。	B	非常に丁寧な広報活動を進められている。来年度に向け、コミュニティースクールの観点での評価項目を設ける必要がある。
		個別の体験入学について周知をはかり参加者数を増やす		A					
		PTAなどと連携した、広報活動の取り組みを実施する		A					
	情報発信の強化	ホームページへの記事を月10件以上掲載する	ホームページ、SNSともに発信の強化ができた	B	B		ホームページのリニューアルに伴い、記事を多く上げることができた。Instagramについてはフォロワー数1,000人を達成した。		
		SNSの発信を強化し、Instagramフォロワー700人を目指す		A					
		プレスリリース等を多く発信しマスコミを活用した広報活動の展開		B					
生徒満足「入ってよかった学校」	安全・安心な教育活動の展開	生徒が安心して通うことができる環境を整備する	学校生活が順調・概ね順調が98．6%	A	A	A	生徒アンケートからも大多数の生徒が、概ね順調に学校生活を送っている。不安に感じている生徒もいるので支援が必要	A	PTAとの協力体制が十分に図られている。学校として、組織的に取り組まれており、丁寧に生徒と向き合うことでの成果が現れている。
		入学時から面談などを行い、小さな変化を見逃さないようにする		A					
		授業規律など指導をおこない、学ぶことで成長につなげる		B					
	学校生活の充実	学校行事等、生徒が活躍できる機会を多くもつ	筑豊高校で頑張っていきたいが令和6年12月アンケート98．7%	A	B		筑豊高校選んでよかった、頑張りたい生徒が98.7%で少数であるが、不安を抱えている生徒もいるので支援していく必要がある。		
		修学課と協力し、誰ひとり取り残さない指導を行う		B					
		各学年に応じた、キャリア教育を実施する		B					
生徒が力を発揮できる学校づくり	情報共有及び各部等の連携	規範意識の確立による問題行動の未然防止のために関係分掌との連携を図る	令和5年度35件 令和6年度21件（12月現在）	B	A	A	特別指導の件数にとらわれることなく、学年を中心としたきめ細かい指導は実施できている。今後も継続し、未然防止の観点をもって、教育活動を展開していく必要がある。	A	各学科、生徒会活動、学校行事等で幅広くリーダーシップを養う場面を設定しており、育成が図られている。 また、生徒一人一人が挨拶をはじめとした規律が確立されており感心した。
		校則違反者等に対する指導において再発防止の視点に立ってきめ細かい指導を行う。		A					
		全ての生徒に対して平等な指導を行える環境を整える。		A					
	学校行事や生徒会活動の活性化	生徒達が何事にも挑戦し帰属意識を高めるため生徒一人一人が活躍できる環境を整える。	学校生活アンケート（12月実施） 【本校を選んで良かった】 ①②回答者98．7%	B	B		学校行事を発展させることが求められる。まずは生徒の意識改革のための取り組みを考え、その後、学年、分掌と連携しながら展開していく必要がある。		
		生徒会が主導権をもって学校行事を行う。		A					
		学校を牽引するリーダーとしての自覚を与える指導を行う。		B					
自己管理「自分の健康は自分で守る学校」	身体の健康充実	健康診断を通した保健指導を行う	未受診者（早期の転学者）を除くと、全生徒100%健康診断を受けている。	A	A	A	保健室が生徒の悩みなどの相談窓口として機能を発揮し、生徒の心身の健康充実を図りたい。	A	今後、様々な背景を持つ生徒の入学が考えられる。多くの関係機関と連携を図り、丁寧な支援を進めていくことが求められている。
		保健室で得た情報を関係職員と連携し、生徒理解に努める		A					
		感染症の状況把握・対策など、各学校医との連携を図る		A					
	心の健康充実	保健委員会活動（保健便り作成・生徒夏季研修会・文化祭）の活性化を図る	SC・SSW相談事業活用（職員研修や情報交換会、いじめ対策委員会等も含む）は100%であった。	A	A		多くの生徒にSC、SSWの活用をしてほしい。		
		SCやSSWと共に、生徒の現状を把握し、教員間の連携を図る		A					
		教員にもSC・SSW相談事業を展開し、相談窓口を案内する		B					
	校内美化の充実	1・2学期にキャンパスクリーンアップを実施する	25点以上のクラスが11クラスであった。（12クラス中）	A	A		細かい部分の掃除の指導を行いたい。		
		各学校行事前に大掃除（30分）を実施する		A					

生徒および教員が安心安全な居場所としての学校の確立	安全な居場所としての学校の確立	生徒及び教員が安心して学校生活を送ることできる環境を整備する	各アンケート結果から概ね生徒の96．4%が学校生活が順調である。	A	A	A	学校生活アンケート結果を分析し、学校生活が100%順調になるために、学校が楽しく過ごせる場所になるために、関係部署と連携を行う。	A	今後、様々な背景を持つ生徒の入学が考えられる。多くの関係機関と連携を図り、丁寧な支援を進めていくことが求められている。
		保護者との連携を図り、生徒自身がよりよい学校生活を送る		A					
		生徒の学校生活の状況を把握し、教員間の連携を図る		A					
	高校生活の充実	企画広報と連携し、誰ひとり取り残さない取り組みを行う	担任。学年主任と連携し、校納金未納者把握、奨学金などの情報提供を行う。	B	B		物価高等により生活が苦しい家庭の把握を行い、給付型、貸与型などの奨学金の情報提供を行い、SSWなどと連携し、安心して学校生活が送れるように進めていく。		
		経済的支援を要する家庭を把握、奨学金の周知、案内		B					
		ホームルーム活動を通じ生徒と担任および教員の信用を図る		A					
キャリア教育の推進（社会的自立に向け基盤となる能力・態度の育成）	就職指導の充実（職業観・勤労観の育成）	マナー教育の徹底（性格を磨き、人間的魅力を高める）	・進路学習予定通り実施（第一志望 内定率 94%） ・企業訪問実施（３年以内の離職率 1割程度）	B	B	A	マナーに関して、企業のお客様より高い評価を頂いている。進路学習は、各学年の協力の下、学年に応じた内容の実施ができた。卒業生の短期離職は毎年度の課題である。	A	出口指導にとどまらず、卒業後の長い人生において生きた教育を進めていくことが重要であり、そのことを踏まえ意欲的に取り組まれている。
		進路学習の充実（講話、ガイダンス、職業体験、面接指導等）		A					
		企業訪問の実施（卒業生の近況、求人動向、信頼関係構築等）		B					
	進学指導の充実（将来を見据えた進学指導）	進路研究の充実（講話、ガイダンス、オープンキャンパス等）	上級学校早期退学率約1割 第一志望校合格率96%	A	A		生徒の視野を広げるガイダンス等を充実させ、適切な進路選択を促す必要がある。大学受験希望者への英語・数学の学習支援が課題である。		
		大学受験希望者支援（入試研究、面談、学習支援、講座開設等）		B					
		奨学金制度の周知、手続き支援		A					
地域社会へ貢献できる商業分野の専門家の育成	社会人基礎力の習得	専門商業基礎力の定着	ビジネス計算検定やビジネス文書検定は90%以上の生徒が合格できた。	A	A	A	受験は希望制であるため、全員受験のチャンスを生かせるよう、十分な説明が必要である。新しい教育課程では、各検定の受験補助科目を再度明確にする。	A	地域とのコミュニケーションがとれていて、直結した取組が進められている。今後も地域、行政、異校種との信頼関係づくりを推進してほしい。
		主体的に学ぶ意欲の育成を目指した観点別評価		A					
		授業・検定受験希望者のサポート等、個々に応じた指導		A					
	実践的教育活動の充実	地域貢献活動への積極的参加等、実践的、体験的な教育活動の推進	「課題研究」では、インターンシップや地域創生、地域防災、販売実習など積極的に地域での活動ができた。	A	A		今年度から地域での活動を増やした。次年度は更に充実した取り組みになるよう、3学期から受入先や協力事業所を探し、目的を理解していただくなど準備する。		
		生徒の自発・自立を促す教育活動を実践し、生徒の可能性を伸ばす		A					
		時間・礼節・マナーを喚起し「筑豊プライド」の醸成を行う		B					
地域社会へ貢献できる家庭分野の専門家の育成	社会人基礎力の習得	科目の指導目標・内容・評価基準を明確にし、指導の充実を図る	授業アンケートでの意欲や理解度は80%を超えた。 検定合格率は75%を超えた。	B	A	A	実習科目の評価については、評価対象・基準を明確にし、生徒の意欲に繋がるように工夫したが、個の能力への対応ができるような授業展開が必要である。	A	地域とのコミュニケーションがとれていて、直結した取組が進められている。今後も地域、行政、異校種との信頼関係づくりを推進してほしい。
		各種検定では、上級合格に向けて主体的に取り組む態度と能力を養う		A					
		専門科目の学びを実践的な活動と連動させ知識技術を深化させる		A					
	実践的教育活動の充実	指導内容に適した、社会人講師と効果的な時期の設定	社会人招聘授業は12回実施。特色ある活動は20回実施し効果を上げた。	A	A		特色ある教育活動は充実した内容となったが、行事ありきではなく、リーダー性や状況判断力などの育成に繋がるように支援していく必要がある。		
		行政や商業施設と学びを生かした連携活動にの実施		A					
		活動において自己有用感を育み、リーダー育成を図る		B					
円滑な学年経営	誰一人取り残さない、生徒が成長できる場所の構築	学習指導は学年に応じた基礎学力の定着を目指した指導を行う	成長できていると答えた生徒は97．8%学習面だけではなく、生活習慣面など生徒が成長していると感じている。	A	A	A	学年ベースで進路に応じた指導を行うなど一定の取り組みができた。授業規律など一部の教科で課題が発生したが、分掌・学年の連携によりおちついた状態である。	A	働き方改革については十分理解しているが、些細なことでも保護者等とコミュニケーションが円滑にとれる学校環境を作ってほしい。
		新入生時より進路希望実現のための指導を継続的に行う		A					
		実学の筑豊生として挨拶や容儀指導を継続的に行う		B					
	働き方改革を意識した、より手厚い生徒指導	転退学者については分掌・各学年と協力しゼロを目指す	学年主任間の連携がとれており縦のつながりがしっかり構築できた。	B	A		保護者等の関係も良好であり、大きなトラブルはなかった。転退学者をいかに減らしていくか学事部や修学課との連携が課題である。		
		保護者との信頼関係を構築し、連携を密にする		A					
		諸問題については分掌・各学年と協力し、解決を図る		A					

自己評価及び学校運営協議会評価を踏まえた今後の改善策

・本校は創立117年目を迎え、卒業生総数28，282名を誇る筑豊地区唯一の専門高校である。入学時から「社会に出るための力を身に付けること」を目標として、教室での学習と共に様々な体験活動を多く取り入れた「実学」重視の学習により、卒業後は地域社会を支え、地域社会に貢献できる（地域創生）人財となるべく教育活動を推進している。生活デザイン科においては、令和7年度入試において8年ぶりに志願倍率が1．0倍を超える快挙となった。資格取得においても常に全国的なレベルを保ち、さらには、年間20回を越える特色ある教育活動の取り組みや広報活動の成果が見られた。しかし、商業に関する学科では、令和6年度、令和7年度入試において2年連続、出願者数は定員120名に対して約半数の志願者数にとどまる衝撃的な数となった。喫緊の課題として、教育課程の見直しや募集方法の改定も含め筑豊地区における商業教育へのニーズについて分析を行ない改善が求められていると強く感じている。このような現状の中においても、いかに本校の特色や魅力を「選ばれる県立高校」として発信し、積み上げていくのか、学校再編等も話題になる中、生き残りをかけて取り組んでいくことは、本校を選んで入学してきた生徒が卒業する時に「筑豊高校に来てよかった」と笑顔と涙で卒業していく姿、そして、全員第一希望進路の実現を全職員のミッションとして、学校満足度の高い教育活動を粛々と展開していく他ないと考える。10年後、20年後も「筑豊高校ここにあり」と地域社会から必要とされ、信頼される学校であるためにも全職員で力を合わせ、本年度の「学校経営方針」の具現化と本校の更なる魅力化、特色化を推進していく。

1　安心・安全な学校づくり「危機管理体制の構築」
2　ワークライフバランスのとれた働き方の実現「職員の健康(心と身体)の維持と風通しのよい職場づくり」
3　やりがいのある学年経営、クラス経営の確立「組織としてのリスペクトある支援体制」
4　基礎学力の定着「主体的に学ぶ意欲の育成を目指した観点別評価の有効活用」
5　鍛えて、ほめて、生徒の可能性を伸ばす教育活動の実践「筑豊プライドの醸成」
6　キャリア教育、職業教育の充実「オープンキャンパスやインターンシップへの積極的参加」
7　実践的、体験的な教育活動の推進「地域貢献活動への積極的参加」
8　積極的な情報発信「広報活動の充実」

学校運営協議会評価	
評価（総合）	自己評価は A：適切である B：概ね適切である C：やや適切でない D：不適切である
A	
評価項目以外のものに関する意見	
特色ある教育活動について広報するにも、推進するにも教員の定数は大きな課題である。一昨年度前から志願者数減による教員の定数減は大きなマイナス要因であり、志願者数減に関わらず教員の定数確保は必須である。	